

平成23年度森プロ事業実績：椿森プロ

(平成24年3月末現在)

	H19～22年度		H23年度				5カ年	
	計画	実績	計画	実績	達成率	備考	計画	
集約化(ha)	365	357	125	0	0		516	
作業道(m)	23,000	13,619	1,000	0	0	作業路含む	24,000	
間伐等	面積(ha)	350	150	125	0	0	利用+切捨	475
	材積(m ³)	15,000	9,123	6,000	0	0	支障木含む	21,000
備考								

19年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む) (仮精算額) 1,500円/m³
 20～23年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む) 未定

施業集約化の状況

- ・ 森林組合が地元精通者の協力を得ながら森林所有者へ説明を行い、施業集約化を行った。

施業プランの活用状況

- ・ 精算時に施業プランの書式を用いて、森林所有者へ説明及び精算を行う。
 (19年度は仮精算済。森プロに関する全額を24年度速やかに精算を行う。)

施業プランナーの養成状況

- ・ 地域総合プランナー: 1名(H19:1名実績)
- ・ 森林施業プランナー: 3名(H19:1名・H22:1名・H23:1名実績)

森プロで施工した作業道の維持管理

- ・ 作業道の維持管理については、森林組合、森林所有者が通常の使用に応じて実施。
- ・ 作業路の崩壊が林地の荒廃にならないよう管理体制を強化する。
- ・ 路面の状況や縦断勾配の現地状況に応じて土側溝等の施工により路盤排水を分散させるとともに汚濁水が河川に流出しないよう努める。

路盤・路肩が安定してきた作業路(H19. 開設)



利用間伐完了後の状況

森プロ団地全景写真



間伐により下層植生が回復しつつある森林



その他

- ・ 民間事業者が、国・県等のフォーラムで森プロの必要性について広報活動を行った。
(ドイツフォレスター研修会など)

森プロの成果

- ・ 路網整備と高性能林業機械を組み合わせた長伐期・非皆伐による森林づくりの一つのモデルとして実証・確立。
- ・ 作業道開設により森林所有者の自己山林への意識を高揚。
- ・ 森林組合の利用間伐に向けた選木技術や作業道の設計監理技術の向上。
- ・ 組合員に対しては、組合広報誌により利用間伐の必要性をPR。

今後の課題

- ・ 森プロ1期生として、県内外への森林づくりの指導・啓発。
- ・ H24年度速やかに森林所有者への精算を行うと共に、森プロで培った知識及び技術を組合直営事業に生かし、森林所有者へ利益還元により森林所有者の林業意欲を喚起する。
- ・ JVを組む場合の役割分担を検討する必要がある。